

令和7年度 市長との対話集会（宮川地区）議事要旨

日時：令和7年11月7日（金） 19時00分～20時30分

場所：宮川コミュニティセンター

参加者：15名

テーマ：新幹線と共に歩む小浜市の将来像

1 参加者からの主な意見

(1) 移住・定住促進と地域活性化

- ・宮川地区における空き家利用の促進と、都市部の農業希望者の受け入れ体制整備。
- ・新幹線開通による関西への通勤・通学圏化で、小浜に住みながら多様な仕事や学校を選べるようになり、人口流出の抑制に繋がることを期待。
- ・東京・大阪のようなきらびやかな街づくりではなく、小浜らしさを活かした街づくりを望む。
- ・新駅周辺に人が集まるような施設整備やイベントの定期開催などにより、通過点にならないまちづくりが重要。

(2) 観光・文化施設の充実

- ・大都市圏からの来訪者を受け入れるための文化施設（コンサートホール、アリーナ等）や、瀬戸内海の芸術の島（直島）のような観光プランの検討を求める。
- ・新駅周辺に小浜や若狭地域の特産品（食事等）を集約した施設を整備し、そこで体験したものを二次交通で現地に誘導する仕組みづくり。
- ・子どもの遊び場や温泉等の集客が見込める施設の設置を検討。

(3) 交通インフラの整備

- ・新駅を降りてから観光地（目的地）までの二次交通に不安があるため、地域の観光地を回れる交通手段が充実すれば、地元住民（特に高齢者）の足の確保にも繋がる。

(4) 医療・福祉の充実

- ・新幹線開通による都会からの医師の通勤アクセス向上により医師不足の解消と医療充実に期待。
- ・地震が少ないなどの優位性を活かし、高齢者が憩える自然豊かな地域として福祉施設の誘致に特化した街づくりを提案。

2 市長からの主な回答

(1) 移住・定住促進と新たなライフスタイル提案

- ・空き家活用は各地区共通の課題であり、新幹線の目的地として、観光客だけでなく地域に暮らす人や通勤する人の視点を取り入れた活用を検討する。
- ・新幹線開通による大阪・京都との接続性を活かし、都会で働きながら田舎で豊かに暮らす「ワークライフバランス」を重視する新たなライフスタイルを提案する。市内を大阪からの通勤圏内（1時間圏内）の新たな居住エリアとしてプロモーションできる可能性がある。
- ・大都市のようなまちづくりを目指すのではなく、小浜らしさを活かしたまちづくりに賛同。人口減少の現実を踏まえ、「高教育・高福祉・高幸福度」を目指したまちづくりを推進する。

- ・小浜の最大の優位性は「豊かに暮らす（心の豊かさ）」ことであり、豊かな水資源や農業を仕事と癒しとして選ぶ若者の増加を踏まえ、農業技術の進化と組み合わせた多様な暮らし方を提案していく。
- ・若者が挑戦できる環境を整えることで、都会で働きながらも小浜に住みたいと思ってもらえるような施策を検討する。その礎として、教育現場と連携し、地域の魅力を学び体験できる機会を増やす。

(2) 先端技術を活用した地域交通と産業振興

- ・新駅からの二次交通のカバーが重要であり、自動運転技術の進展なども見据えていく必要がある。
- ・若い世代が活躍できる先端技術分野の企業誘致に取り組んでいく。

(3) 新駅周辺の拠点整備と広域連携

- ・新駅周辺にアリーナが建設されることには賛成であり、大阪から 38 分でアクセスできる立地は、プロバスケットボールの試合やコンサート、商業イベントの誘致に有利であり、小浜への興味喚起に効果的であると考えます。
- ・賑わい創出エリアは新駅周辺だけでなく、市全体として捉えるべきであり、新駅周辺に小浜市内や若狭地域の特産品を集めたストリートや飲食店を集約し、そこから現地に誘導するアイデアは面白い。
- ・新駅をハブとして、各エリアへの交通機関（バス等）を整備する必要性を認識しており、観光客と生活者が共用できる交通手段（バスの機能統合等）を検討することで、両方の課題解決に繋がると考える。